自由労組へ温い贈りもの

東圧白金社宅の婦人会が
年末助け合い運動へ

年の暮がおしせまつてきた。保守政府の政策は再軍備のための予算はジャンジャン湯水のようにつかい、困窮者に対しては横目をむいているのが日本の悲しい現状である。為政者のこうした態度に憤りをおぼえつゝも、同じ日本人として黙視することはできない。白金社宅婦人会は、年末助け合いの運動を話し合い、衣類五百数十点を出し合い十二月六日、自由労組大牟田分会に送つた。自由労組大牟田分会は、直ちにこのあたゝかい贈物を配給することを約し、十二月七日には東圧大牟田支部白金社宅婦人会にお礼をのべた。

血が通う贈りものに
感激した自由労組

十一月十九日、大地評主催の婦人代表者の懇談会がひらかれ、年末年始の自衛運動などが話し合はれたが、自労の婦人代表が「あなた達は、正月をどうして節約するかと話し合はれて居られますが、私達の場合、どうして、モチをつくことが出来るだろうか、子供に下駄の一足でも、買つてやれるだろうかとなやんでおります。」と、昨年など、モチをつけなかつた家庭が三千六百世帯のうち半数以上も居つたことを話したところ、そうだ、昨年は筑豊の炭鉱の仲間たちに贈りものをしていたが、肝腎の地元のことを忘れていた。みんなで、不要な衣類などを出し合つて、たすけ合い運動を起そうということが話し合はれた。

十二月六日、東圧白金社宅婦人会代表八名は、宮内文子会長を先頭に六台の乳母車に、衣類五百五十一点を満載して、自労の本部をおとづれ「これは、ほんの少しだが……」と千五百円をそえて、寄贈した。このあたゝかい贈り物に接した自労本部では直ちに、六支部の代表を召集して、配分方法について慎重に検討し、各輪番（二十名単位）に分配して、その中で、輪番の話し合いで一番苦しい人に分ける方法で十二日までに、分配を完了した。七日は、自労婦人部員十名が白金社宅を一軒々々まわり、御礼の言葉をのべ、社宅婦人との交流を深めた。このあたゝかい贈り物に対して自労三川支部の一組合員は次のように言つている

組合の人はいつも共同闘争、共同闘争と口ぐせのように言つているが、ほんなこて、他の会社の人達が俺達の苦しさをわかつてくれるだろうかと思つていたが、今日この衣類の山をみるとたゞ可哀そうだからという意味だけではなく、なんだかお互いに血が通つているような気がする。東圧の闘いのときは、一生けんめい応援しよう。

と語り、現場でもこのことが、話し合はれている。

寫真は自労本部の前に山とつまれた贈りものと白金婦人会の人たち

問合せ應接に大童
入替採用受付始まる

十二月十二日より二十日まで受付をしている三鉱労組の病弱者並びに停年退職間近かなものの子弟の入替採用は、日本の労働史上はじめてのものといわれ、各支部で受付を行つているが、三川支部では

この協約が発表されて以来、支部長以下執行委員は組合事務所はおろか、自宅までも訪問者があり応接に忙殺されている。とくに、谷端支部長が出勤するやいなや、申込者や問合せの訪問者がひつきりなしに詰めかけている状態である。昼食時の寸暇をねらつて、谷端支部長との一問一答をこゝろみた。

問「この協約の意義は……」

答「一番大きな点は、組合員が会社の都合でクビにならないということ。今日いまだ資本家の強い日本の労使関係では、この点をとくに強調して良いと思う。なお、この協約はそれを一歩踏みこえて子弟の雇用にまでおよんだのは、より一層の積極性があるものといえる。

問「最低の利益を受ける人でクビは保障されたわけですね。会社への影響は……」

答「会社の生産計画とか、労務計画が今までは組合員の考えにかかわりなく行われたが、今後は何分組合員が在籍しているということを考えて、企画を樹てなければならなくなつたということです。」

問「入替採用の条件に適はない人がいるが、これに対してはどう考えますか？」

答「勤続十五年、坑内労働、一家の支柱、この三条件はなんといつても一種のワクですね。機械的に適用しないという精神を最大限に生かしたいものです。」

問「申込みは多いですか？」

答「今のところは十名前後ですが問合せはひつきりなしです。ゆつくり納得のゆくまで話し合うようにしていますが、なにしろ押すな押すなで、不十分なところがあつたら何度でもたづねにきていただきたい。」

一問一答は以上の通りだが、この協約が発表されて以来、何といつても組合員の間に、あんどと喜びの空気があるのはかくせない。

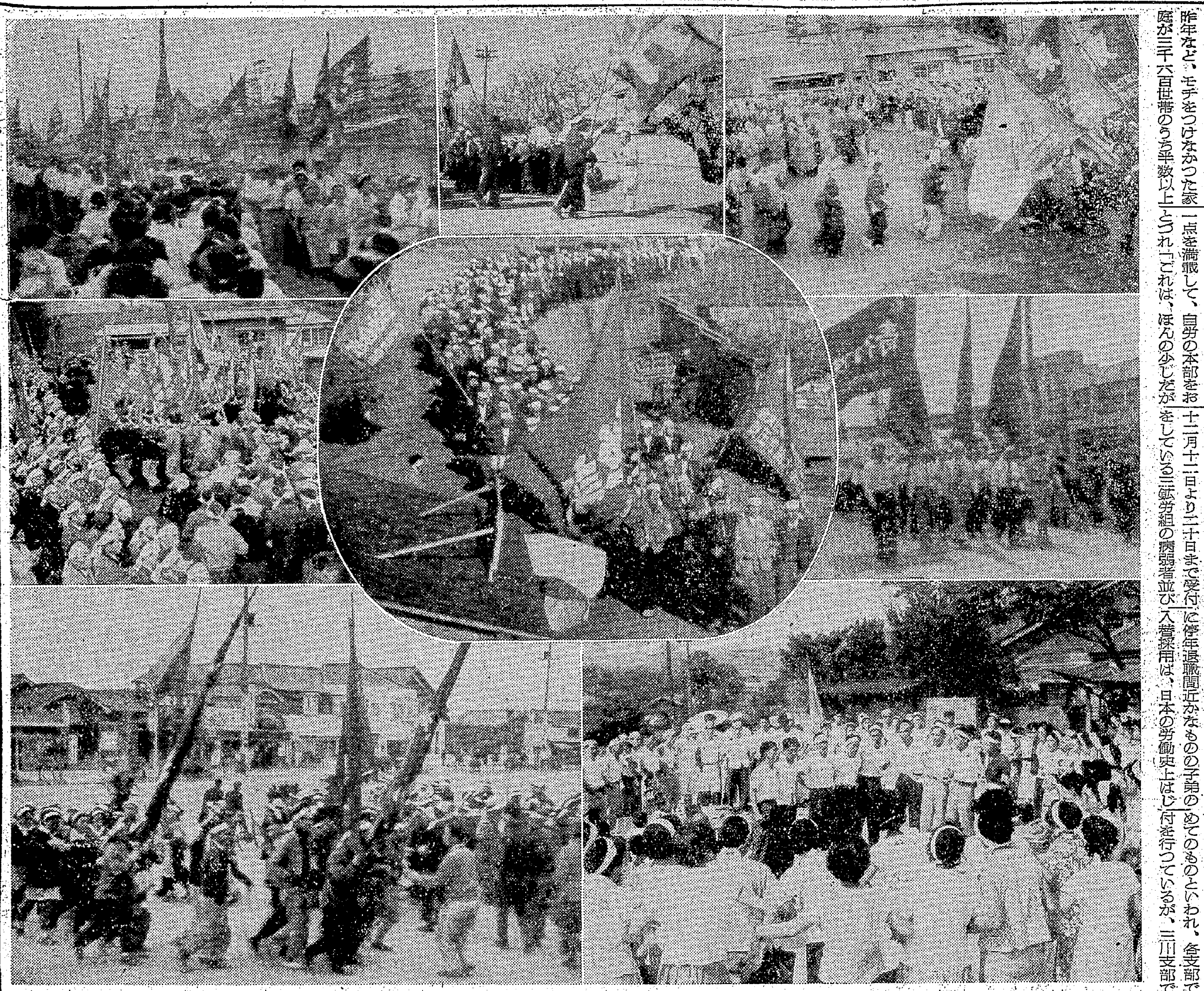
坑外の、ある組合員（四十九才）に聞くと、

大工にしようか、左官にしようかと子供が大きくなるといろいろ考えるものだが、入替採用をしていただくなら大変有難い。組合のやり方には感謝しています。

また、停年に近いある五十才ぐらいの組合員は、

おれのうちは娘だけで、条件に適はないが、俺たちまで適用されるように考えて欲しい。それにしてもクビにならないというのは素晴らしい。

その他多数の人の意見をたづねたが、すべての人が大歓迎の意志を明らかにしてくれた。以上は三川支部の例にすぎないが各支部とも三川に負けず劣らぬ状況を呈しており、この入替採用の受付けに大童である。



＝斗い抜いた一九五五年＝

（右上）東圧期手斗争デモ
（右中）三染労組賃斗デモ
（右下）小倉労組カンパ隊を激励する三鉱労組員と主婦会
（中中上）電化の首切反対デモ
（円内）統一と団結を守る大会に臨む合成労組
（左上）三煉の賃斗デモ
（右中）合成の斗いを激励
（左下）自労の期手斗争デモ

共同デスク　組合めぐり　第十六回　三和化學勞組

女子だけの勞組
甘味剤はつくるがなめられない闘志

私達の会社は昭和二十四年、個人経営、甘味剤（砂糖ミツゲン）製造工場として設立され、昭和二十八年八月、従業員総数三十数名の三和化学工業株式会社に発展、その間、零細企業としてデフレのシワをうけながら経済不況をどうやら乗切れたようです。

製品の主な販路は福岡県を始め長崎、大分、熊本、山口を含む本州の一部で、季節的産業の影響をうけ、冬枯れは私達組合員にとつて、苦しい時期です。

◇組合結成

私達の組合は、組合長を始め役員、組合員の全員が女子で、大地評傘下二十一単産の中で唯一の女子単組であると思います

去る十月十一日、会社側より何の相談もなく、作業量（ノルマ）の引上げを云いわたされました。しかし、いまゝでのノルマでさえも、なれない人は時間一杯仕事をしてもやりきれない状態であり、朝早く出勤して仕事にかゝらなければならない状態でした。

作業量の引上げに対する私達の不満はついに爆発し、十二日十六名の女子従業員（事務関係外数名を除き）は会社に無通告のまゝ職場を放棄、こんごの対策を話し合い、争議の指導を受ける人をみんなで探し、十三日再度市内泉町金比羅神社に集り市議の小宮生計さんのあつせんで大地評の指導を受け、組合結成に必要な規約の制定、役員選任、団交権の委任、争議の指導等を受け、翌十四日は会社と団交、その間労政事務所長のあつせんもあり、午後六時すぎ、

(1)作業量を現状より増さない
(2)全員就業を認める
(3)組合を認める

などを承認、三日間にわたるストの解決をみました。

私達の組合は、争議の中からたん生した組合といつた方がぴつたりします。

◇職場は和気あいあい

争議解決後は労資双方、色々小さいことまで話し合い、職場は日一日と明朗になり、各人が職場を愛するようになりました。

十一月には会社主催で会社、従業員ぜん員、ミカン山ハイキングを行い、楽しい一日をすごし、組合の方向と運営にみんな自信をもつた。

◇経営者石原氏談

争議解決後、一切の問題は組合を通じ、相談して処理しています。従つて従業員の生産に対する意欲があがり、誠実がこもり、一個一個の製品は確実で、こんごの見通しについても非常に明るいものをもつています。

※労働条件、福利厚生施設については一度で完成することは困難であり、逐次努力して行きたい。私共の製品が、地元大牟田に極めてせまく、こんご組合とも話し合い、事業の発展をはかりたい。

イ、男子の作業ズボン支給済
ロ、大型ストーブ三個据付、作業場の保温確保。
ハ、越年手当は昨年より上廻るように考えている。

このほか、いろいろありますが……と語り、中小企業は労資一体となつてこの経済不況を乗切らねばと、あかるい表情。

私達の組合は、やつと足かけ三カ月の歴史で、こんごに期待をもつて働いています。

写真（上）作業場の組合員（下）女ばかりの組合員

贈答・回礼やめましょう

ホットした残業帰り
渡瀬驛　魔の踏切の汚名返上

……この踏切は見通しがまつたく悪く、おまけにレールが数本もあるので列車が予想外のところに入つてくるなどでまつたく危険この上もなく、ついに三人の尊い生命を奪つてしまつた。

このほか三鉱のトラツクや、お膝元の製作所の自動車関係も危い目にあうことが度々で、とくに残業帰りの人々の心配の種でもあつた人が死に、事故が起ることに、ようやく村の人たち、とくに社宅の主婦の人々が関心を持ち、組合はみいけの「焦点」欄で取り上げた踏切番復活の問題が広く世論から支持され、村、駅、組合、会社の協力で見事に実をむすび、〃魔の踏切〃の汚名を返上したという話

三池郡高田村省線渡瀬駅の間近にある踏切（正式には渡瀬駅構内第三十一号六線跨踏切）は三、四年前頃までは踏切警手もいて、事故ひとつ起らなかつたのであるが国鉄の人員整理や渡瀬工場の縮少で通行人が少くなつたなどの理由で、ついに踏切警手を置かなくなり、無人の魔の踏切が出現した。製作支部が中心となり村当局に対しては塚本氏（当時労組出身村議）などが働きかけ。村、組合、会社が動きかゝつた。

本年に入つてから村議会は、森尾村議（政治局員）にバトンが渡され、本部蓮尾法対部長や支部の中原副支部長らが熊本管理局へ出むくなど、相当な努力が払われ、組合は政対部を通じて荒地評の前川事務局長や酒井県議、それにこの警手配置について国鉄の人員引締め方針や国鉄内のいろいろの困難な事情にも拘らず、数々の援助をされた国鉄労組熊本地方本部の西島委員長、森給対部長らの協力があり、ついに十一月初旬、永い待望であつた魔の踏切が解消して、毎日五千人に及ぶ通行者は何の不安もなく通勤できるようになつたのである。

森尾政治局員（村議）談

この問題を解決させるに当つては村当局は勿論であるが、三鉱労組の努力は大変なものであつた。支部や政治局の人々の政治的な動き、また酒井県議（熊本県、政治局員）や国鉄労組の人々の努力に感謝したい。

また、この種交通問題に関連するものとして、三川鉱のバス通勤者の間で要望となつていたバス停留所の三川鉱前設置が、ついに三川支部委員会でも取り上げられ、政治局への要望が行われた。この結果、市の経済委員である広沢修功氏（政治局員）が中心となり、再三西鉄側と折衝を行つてきたが、ついに去る十日からこの停留所が設置される運びとなり、三川鉱へのバス通勤者に大きな喜びを与えている。

お断り

廿五日附発行の「みいけ」は新年号刊行のために休刊いたします。

編集部

文化團体統一の爲に
映文協など10團體が申入れ

先日の共同デスクで既報のように一部の文化団体だけで「大牟田文化連合会」が結成されたが、これからボイコツトされている映文協演劇協会、劇団ばぐるま、表現座、新日本文学支部、三鉱文学サークル、自労文学サークル、前進座後援会、詩研究会など十団体では、十二月十日大地評二階で懇談会をもち、あくまで統一の立場にたつて文化連合会と話合いを行うことに意見が一致した。

文化連合会がこれらの団体をボイコツトしていることは、きわめて政治的な意図があるようで真に全市のあらゆる文化団体の大同団結をねがうならば、その大小、分野、傾向の如何を問わず、幅広く包含してゆくべきであり、そのために社会教育課はあくまで謙虚に尽力すべきである。ところが実際は逆にこれらの団体をボイコツトする行動に出ており、このまゝで放置すれば統一とは逆の結果が生じるおそれもあり、早急に文化連合会および社会教育課と話合いも持ち、その経過とか内容や疑問の点を質した上で、加入をはからねばならないという結論に達したものである。

そこで、十四日映文協出海事務局長と劇団ばぐるまの長山氏が、文化連合会及び社会教育課に申入れを行つた結果、十二月廿日（火）午後五時から市民会館会議室で統一のための懇談会を行うことになつた。

なお、市教育委員会、市議会教育民生委員会、大地評からも同席して、話合いに参加、援助することになつている。

書評
読売新聞社会部
日本のむこ殿

はじめてこの標題をみる人は奇妙な題だと思つて首をかしげるかもしれない。外国資本物語という副題がついている。戦後の日本経済にいわば青い目のむこ殿としてはいりこんできた外国資本が、どのようにわれわれのお金をしぼりあげているかということを、石油、電機、航空機、薬ひん、繊維、自動車、パチンコの各部門についてわかりやすく説いてある。新聞記者、それも社会部の記者によつて書かれているだけに非常におもしろい。くだけたフデ使いで、つぎつぎにおどろくような事実が暴露されていくうちに、外国資本の奴けしからんと思わせられてくる。しかしそこで注意していたゞきたいのは、外国資本による被害は国内の諸階級に一様ではないということである。いいかえれば、われわれ労働者の非常な被害をこうむつているのに反して、国内の独占資本は個々の点では外国資本と利ガイの反することがあるにしても、大局においては、殊に労働者に対する立場においては外国資本と共通の利ガイを感じている同じ穴のムジナだということである。外国資本をけしからぬと思うあまり、その外国資本を追つぱらうためには国内の独占資本とでも共同戦線を張れるかの如く錯覚してはならない。このことさえ注意して読むならば、先にこの欄で紹介された「財閥」等とともに、今日われわれのおかれている立場を知る上に、きわめて役に立つ本である。

（新書版、東大出版会、百円）

九大講師　小島恒久

「製糸労仂者の歴史」
（岩波新書一〇〇円）

この書物には政府のてあつい保護を足掛りとして成長した幕末から現在まで、およそ百年間の製糸労働者の歴史が書かれている。

製糸業繁栄の基礎は、劣悪な労働条件、「カゴの鳥より監獄よりも、寄宿ずまいはなおつらい」とうたわれた苛酷な「寄宿舎制度」（これは炭鉱労働における「納屋制度」に相応する）そして低賃銀であつたこと。これらの重圧と、かけらほどの人間的自由をも許さぬ激しい弾圧の具体的な姿が、日本資本主義の各発展段階に応じて要領よくまとめられている。しかもこの書が特に優れている点は、これまで「哀史」（無知、無自覚、あきらめ）としてのみ理解された時代の中に、それらを乗り越えて闘つた製糸労働者の輝かしい歴史的伝統＝闘いの歴史を掘起した点にある。「汚れちまつた悲しみ」の中でも「解放のうちに死を夢む」天才詩人の弱さの代りに、団結して斗うことを知つていた事実を跡づけた点にある。又、各章毎に製糸労働者自身が創つて口づさんだ「うた」をのせているのも、その成長ぶりを身近かに感じさせてくれるものといえよう。最后に、この本の編纂が「自分たちを今日の状態におとし入れたものの正体をはつきりと把握したいという慾求が広汎に育つてきた」（はしがき）ほどに成長した製糸労働者の「全国蚕糸労働組合連合会第十一回定期大会の決議」にもとづいて、広範な層の学者と労働者の共同の力によつてつくられたものである事を附言しておきたい。そのことが下手な解説をほどこすよりも、本書を推せんするのに一番適当であろう。

九大特研生　篠崎光行

弦鳴高らか
三川の弓道大會

さいきん、時代の波に乗つて盛大にもり上りつゝある弓道も、三鉱では三川鉱が最強を誇つており、いままで幾多の輝かしい戦績を記録しているが、十二月十一日三川鉱では小春日和にめぐまれて部内大会を同好者二十五名が参加して挙行した。

午前十時、組合、鉱の代表者の挨拶の後、稲葉錬士の矢渡しは門田五段の六段昇格を祝して行われ、全員謝礼ののち、競射にうつり、おのおの修錬の腕を競いその技を十二分に発揮して、好射の続出で記録的な成績がおさめられた。

修了後、余興射は金的、射割を面白く楽しみ、午後三時すぎ盛会裡に終了した。

◇成績
優勝　畑田義雄　三位　宮本貴有
二位　野中則男　四位　前田正記
◇金的
田島五段　杉光二段　原　初段
◇射割
福永四段　宮本二段　石橋無級

金的を競う弓道家たち

三鉱労組
結成十周年記念文藝募集

来春二月三日の三鉱労組結成十周年記念事業の一環として「みいけ」編集部では記念文芸特集を左の要領で行うので奮つて応募下さい。

△創作　四百字詰十枚以内、選者＝野間宏、賞金入選一席一千円、二席七百円、三席五百円
△詩　一人一篇、選者野間宏、賞金入選一席三百円、二席二百円、三席百円
△短歌　（題＝早春雑詠）一人二首、選者＝岩本宗二郎　賞金天三百円、地二百円、人百円
△俳句　（題＝当季雑）一人二首、選者＝吉岡禅寺洞　賞金右同
△川柳　（題＝十年目）一人二首、選者＝折衝中、賞金同
△兒童綴方　（題＝友だち、おこづかい）編集部選、賞金右同
△感想文　（題＝十周年の斗いに学ぶもの）編集部選、賞金一位五百円、二位三百円、三位二百円
△寫眞　（題＝自由）一位五百円、二位四百円、三位三百円、佳作二百円、その他各種佳作にも薄謝進呈
※締切＝一月十五日
※宛先＝三鉱労組本部「みいけ」編集部及び各支部教宣部

手をつなぐ
母さんと女の先生

「日本子供を守る会」の大牟田会を発足させる運動の一環として、お母さん方と女の先生と手をつないで、子供の成長と幸福を守ろうと、大牟田でも準備会を開いて協議していたが十二月十一日、平原小学校でお母さん方と女の先生約六百名集り発会的な総会を開いた当日は発会後、全員が八分科会に分れ、それぞれお母さん一名、女教師一名の司会のもとに、具体的な子供の問題について活発な討論をかわし、それぞれ解決の方向を見出した。

なお、「お母さんと女の先生と手をつなぐ会」は、婦人だけの自主的な会合であり、十一日の発会の模様から、今後の活動が期待されている。

馬五郎一座顛末記
独立プロ作品『浮草日記』

さきに大地評主催で上演した新制作座の「市川馬五郎一座顛末記」の映画化で、現代の空気と縁遠いみじめな田舎まわりの歌舞伎役者のあわれさとおかしさを感じさせながら今日的な人情話に仕立てられているのがなによりの長所である。真山美保原作、山本薩夫監督独立映画作品。

十名足らずのどさ廻りの劇団馬五郎（東野英治郎）一座、座員はすべて無学で、人のいい人物ばかり。彼らは、悪質な興行師（小沢栄）のくいものにされ、みじめな生活をしている。一座はストさわぎの炭坑町にのりこむ。無知な毎日を送つていた座員は、労組の人々と接触し、はじめて社会人として目ざめる。庶民的な笑いとペーソスを巧みに描いて、山本監督の良識が見事に結実した楽しい映画である。津島恵子、菅原謙二が主演。（21日から大天地、荒尾名画座）